

読書記録シート

読書番号 15 氏名 有田 志子

記入年月日 2003 年 6 月 22 日

題目（書名・論文名） 文章理解・記憶における統合処理の効果

著者 安永正史、兵藤宗吉

出版社 第66回日本心理学大会 出版年 2002 ページ数 p735

書籍のありか 北海道教育大（函館校）

関連する箇所の内容

長期作動記憶；長期的・正確、アクセス性に優れた記憶のことを長期作動記憶という。

仮説；既有知識をもとに積極的に構築統合処理された記憶表象が、長期作動記憶としての性質を有するかどうかをの検討を行った。

方法；ターゲット語直後の記憶再生と 妨害課題後の探索法による、再生率を測定する

結果； 統合的な表象を形成するように指示した群と何も指示しなかった統制群との間に記憶の質の差はなかった。

自分の意見

失敗の原因は、実験っていう、ごく短い期間で、無意味つづりや 記銘語（名詞）のよ
うなミクロレベルで実験を行うからじゃないかな。 本当に、既有知識と結びつくってい
う場合は自分の経験など、自己と直接結びつくかたちで、情報が統合されることを意味す
るのではないだろうか。 その場合は、そうでない場合と比べて、記憶の質。。（アクセス
のしやすさ） に影響を与えようとする。